

# NPOひがし大雪アーチ橋友の会

旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群



「北海道自然歩道・東大雪の道」は、鉄道資料館からメトセップ地区に至る全長約8kmの散策コース。訪れる人々は、アーチ橋で記念写真を撮ったり森林浴を楽しんだり、歴史と自然を堪能している。また、「友の会」ではトロッコの設置（写真下）など土幌線跡を楽しむためのコンテンツを積極的に整えている



group  
①  
北海道遺産びと

## 1999年の発足前から、アーチ橋を見守り、はぐくむ。

### アーチ橋の 解体危機を救った 「保存する会」

『ひがし大雪アーチ橋友の会』(那須襄太郎会長代行、会員2336人)は、1999年から、アーチ橋の保存・活用運動に取り組んでいる。

事の発端は、97年7月。アーチ橋解体の危機を前に、『士幌鉄道アーチ橋と産業遺産の保存活動』というシンポジウムが士幌町で開催され、北海道産業考古学会の研究者たちが、「アーチ橋の保存運動に乗り出してほしい」と地元を要請した。これを受け止め、『ひがし大雪鉄道アーチ橋を保存する会』が発足した。現在の『友の会』の前身だ。

『保存する会』は、署名運動や保存活用策の提言などを活発に展開。この運動が関係機関を動かし、98年10月、旧国鉄清算事業団が士幌町に橋梁群と線路跡地の一部

を譲渡する契約が結ばれ、保存が決定したのだった。そして、保存決定から7年目の夏。アーチ橋と線路跡が活用されることになった。

### 活動8年目にして 突らせた 自然散策路

05年7月、士幌線跡を利用した「北海道自然歩道・東大雪の道」の供用がスタートした。97年のアーチ橋保存活動から数えると、じつに8年目の実り。アーチ橋の具体的な活用のはじまりである。

「供用開始となった最初の秋の連休中は、たくさんの人々が線路跡を散策し、東大雪の自然とアーチ橋の文化財としての素晴らしさを楽しまれました」と話すのは、『保存する会』の頃から中心的な役割を担う、『友の会』事務局長・角田久和氏。平成18年度には、北

海道開発局により三の沢橋梁付近に障害者用スロープを整備するなど、体の不自由な人も楽しめる自然散策路をめざす。

### これからは ソフト面の活動も活発に

『友の会』では、太陽北海道地域づくり財団やニトリ北海道応援基金の助成を受け、駅名標やレールを設置するなど、士幌線跡の鉄路再現事業も行っている。

「この地を訪れるみなさんに、いろいろな形で士幌線跡と触れ合ってもらえるよう、魅力的なコンテンツを今後も整えていく予定です」とは角田事務局長。

さらにこれからは、「アーチ橋工事写真集」の編さんや「北海道自然歩道・東大雪の道」の散策案内作成など、ソフト面の取組みも強化し、アーチ橋の魅力を全国に発信していく姿勢だ。